

◆ 【御船印めぐりの旅】 — 伊勢湾フェリー株式会社 —

鳥羽市～伊良湖岬(しおさい海道)を結ぶ「伊勢丸」の旅

汽笛を鳴らしフェリーが岸壁を離れ、その白い航跡は沖へ伸びていく。三重県の鳥羽市と愛知県・渥美半島の先端にある伊良湖を結ぶ「伊勢湾フェリー」。約1時間の短い船旅だが、この鳥羽～伊良湖の航路は、現在も伊勢と東海、関東を結ぶ周遊ルートとして重要な位置を占める「しおさい海道」と呼ばれ、春夏秋冬、航路に連なる島々の四季の変化を楽しめる。

航路は伊勢湾入口となる愛知県渥美半島の伊良湖岬から、伊良湖水道航路を横断し、三島由紀夫の小説「潮騒」の舞台ともなった神島や多くの離島がならぶ鳥羽湾を経由し、三重県鳥羽市までを結ぶ。時間があれば渥美半島のほか、鳥羽市側では隣接する伊勢市や志摩市の、さまざまな名勝も歩くことができる

近鉄鳥羽駅前の道を挟んで広がる鳥羽の海。海岸沿いには佐田浜東公園があり、イルカの噴水と土産物店「鳥羽マルシェ」が見える。真珠や海産物で有名な鳥羽市の海の玄関口である鳥羽フェリーターミナルは、鳥羽水族館の隣にあり、途中にはミキモト真珠島が浮かんでいる。このフェリーターミナルから伊勢湾フェリーの「伊勢丸」に乗船し、伊良湖岬へ向かい、船旅を楽しんだ。

見どころは多く、三重県側なら鳥羽市のイルカ島、伊勢市の伊勢神宮（外宮・内宮）や夫婦岩、志摩市では賢島や英虞湾（あごわん）クルージングなども訪ねてほしい。伊良湖岬側では、日出の石門（ひいのせきもん）、伊良湖岬灯台、恋路ヶ浜を巡り歩いた。

クリスタルポルト

鳥羽フェリーターミナルから55分の船旅で伊良湖岬側の伊勢湾フェリー乗り場に到着すると、道の駅・クリスタルポルトが隣接しており、レストランと観光土産売り場、島崎藤村の「やしの実の詩」をメインテーマにしたミュージアムがある。

日出の石門

太平洋の荒波の浸食によって真ん中が洞穴となった日出の石門は、沖の石門、岸の石門の2つがあり、日の出のときに美しいシルエットを見せてくれる。気の遠くなるような長い時間の果てに、太平洋の荒波に削られた奇岩、それが日出の石門。どうしてこんな形の岩が出来たのか、眺めているだけでも、不思議な感覚にとらわれるが、この石門は、地質学上はチャートという堆積岩。

伊良湖岬灯台・恋路ヶ浜

愛知県の渥美半島先端にある、伊良湖岬の突端に立つ白垂塔形（円形）の中型灯台。周辺は、三河湾国定公園に指定され、太平洋や伊良湖水道を望む風光明媚の地。渥美半島の沖合の神島灯台と共に、三河港・衣浦港に出入りする多くの船の指標として、安全に大きな役割を果たしてきた。太平洋から伊勢湾・三河湾までを一望するその凜とした姿は、思い出に残る灯台として「日本の灯台50選」にも選ばれている。

恋路ヶ浜は観光スポットとして命名されたものではなく、その名の歴史は古く江戸時代の1808年には、和歌に「春さめにぬれてひろはんいらご崎恋路ヶ浦の恋わすれ貝」と歌われている。伝説では、その昔、高貴な身分の男女が許されぬ恋がゆえに都を追放され、この地に暮らしたことに由来するという。

御 船 印

一般社団法人日本旅客船協会の公認事業である「御船印めぐりプロジェクト」では、参加会社の船や航路ごとに発行するさまざまな御船印を集めることができる。

御船印とは、神社仏閣めぐりで集められる御朱印の船バージョンで、日本各地の船をめぐる船旅の楽しみをさらに盛り上げるため、プロジェクトに参加する船会社のオリジナルの御船印帳・御船印紙を購入し、旅客船や観光船などに乗船した際、船旅の思い出を彩る記念の押印（スタンプ）をいただくもの

「海員だより」